

## 平成30年度燕市保健事業の取り組み状況

健康づくり課

## 第3次燕市健康増進計画における保健事業の方向性 一覧

### 1 妊娠から子育てまでの総合支援

- (1) 妊産婦・育児支援事業
- (2) 乳幼児健診事業

### 2 市民協働型の健康づくり

- (3) 健康づくり事業
- (4) 地区組織・人材育成事業

### 3 検診から事後相談・事後指導、介護予防までの総合支援

- (5) 各種健診(検診)事業
- (6) 各種健康相談・教室事業
- (7) 介護予防事業

### 4 自分にあつたところの健康づくり総合支援

- (8) こころの健康づくり事業
- (9) 食育事業
- (10) 歯科保健事業

# 1 妊娠から子育てまでの総合支援

## (1) 妊産婦・育児支援事業

### ① 週数別妊娠届出者数

年度	総数 (人)	11週以内		12週～19週		20週～27週		28週以上	
		届出数 (人)	割合 (%)	届出数 (人)	割合 (%)	届出数 (人)	割合 (%)	届出数 (人)	割合 (%)
H30	519	492	94.8	23	4.4	2	0.4	2*	0.4
H29	515	497	96.5	15	2.9	2	0.4	1	0.2

\*: 出産後1人(国外に居住しており、手続きが出産後となったため)含む。

・平成27年度から「育み相談コーナー」を開設し、妊娠届出に来られた人の相談にその場で面接している。

### ② ハッピーベビークラブ

年度	延べ参加人数(人)	1回目(人)	2回目(人)	3回目(人)	実施回数
H30	296	28	38	230	4クール
H29	322	47	39	236	4クール

※人数には夫や実母などを含む。

※1回目: 妊娠中の食事と生活

2回目: お口の健康、マタニティライフを楽しむコツ

3回目: 妊婦体験、沐浴体験、夢ある子どもに育てるコツ、産まれたよ会(妊婦・夫婦と赤ちゃんの交流会)

・3回目は毎回30組を超える夫婦での参加が多く、体験学習のニーズが増加している。

### ③ 妊婦健康診査

年度	受診者数(人)	延べ受診者数(人)	子宮頸がん検診受診者実人数(人)
H30	804	5,876	400
H29	795	5,768	403

※14回分の健診受診費用を助成している。(平成28年度から子宮頸がん検査受診クーポン券も発行)

・子宮頸がん検査は1回目に実施している。(半年以内に検査済みの人は対象外)

・県外の医療機関受診者には償還払いで対応している。(平成30年度申請数: 実数21人 延べ115件)

#### ④ 妊娠から子育てまでの「育み相談コーナー」

妊娠、出産、子育てについてのワンストップ総合相談窓口を平成27年度から開設しており、母子健康手帳交付時や出生届出時に面接をして個々の相談に対応している。また、要支援者に対しては支援プランを作成し、関係部署と連携した切れ目のない支援体制づくりに取り組んでいる。

(単位:件)

年度	面接相談	電話相談	支援プラン作成数	支援プラン作成の主な理由
H30	307	281	74	ハイリスク妊婦、産後の育児不安、虐待・DV疑い、児の発育発達支援
H29	327	241	57	

- ・妊娠届出時に「育み応援プラン(チラシ)」を配布し、窓口の周知を強化したこともあり、相談コーナーの相談件数は増加傾向にある。
- ・育児不安を強く訴える妊産婦が増加しているため、母子保健事業につなげて支援した。
- ・医療機関より継続支援連絡票の送付が増加しているため、訪問助産師や関係機関との情報交換・連携強化に努めている。
- ・関連部署との連携体制構築のために、ネットワーク会議を平成31年3月に開催し、連携対象ケースについて確認し、マニュアル作成に取り組み始めた。

#### ⑤ 産後ケア事業

児童虐待防止につなげるため、産後うつリスクを減らし、母子ともに健やかな生活が送れるように、面接相談や訪問によりハイリスク者の把握に努める。平成29年度は市内1医療機関だったが、平成30年度は市内外13医療機関等に委託し、産後ケア事業を実施した結果、利用者拡大につながった。

【委託料金】 宿泊型 1日 10,000円 デイサービス型(日帰り型) 1日 3,000円

(単位:件)

年度	利用延べ件数	利用内容
H30	21	宿泊型21 デイサービス型0
H29	16	宿泊型16 デイサービス型0

#### ⑥ 妊産婦・新生児訪問指導状況

(訪問延べ回数 単位:回)

年度	妊婦	産婦	新生児等
H30	180	656	838
H29	158	630	954

※希望者に対し、助産師が妊婦1回、産婦1回、新生児2回の訪問指導を実施

※訪問回数には保健師訪問数(未熟児支援や虐待防止等)も含む

- ・「育み相談コーナー」において助産師訪問の利用勧奨をしている。
- ・体重増加不良や育児不安が強い人へは、継続訪問や2か月児育児相談会で継続支援を実施している。
- ・産後の助産師訪問を希望しなかった家庭には、社会福祉課の「こんにちは赤ちゃん事業」を実施し、看護師が家庭訪問等で状況把握を行っている。

⑦ 育児相談会(年12回開催)

(参加延べ人数 単位:人)

年度	4 か 月 以下	5 か 月	6 か 月	7 か 月	8 か 月	9 か 月	10 か 月	11 か 月	1 歳 5 か 月	1 歳 5 か 月 ~ 1 歳 11 か 月	1 歳 6 か 月 ~ 1 歳 11 か 月	2 歳	3 歳 以上	合計
H30	95	49	39	47	71	38	22	55	193	56	78	39	782	
H29	127	73	60	67	93	50	43	51	228	76	122	36	1,026	

※身体計測、育児・栄養相談

- ・1歳を過ぎると入園する児が多くなることや、子育て支援センターの充実により、相談先の多様化から参加者数が減少傾向にある。
- ・支援が必要な母子へ、今後も積極的に相談会を勧め、切れ目のない支援を継続していく。

⑧ その他相談・教室

相談・教室名	年度	実施回数(回)	実人数(人)	延べ人数(人)
2か月児育児相談会	H30	12	323	
	H29	12	302	
療育相談会	H30	34	114	130
	H29	35	76	100
療育教室	H30	24	33	205
	H29	24	28	139
たんぽぽの会 (障がいのある子と保護者)	H30	12	30	101
	H29	12	26	112
産まれたよ会 (妊婦・夫と赤ちゃんの交流)	H30	4	70	74
	H29	4	60	81

- ・相談会や教室などは、育み相談コーナー(助産師訪問など)や、乳幼児健診からフォローが必要な親子へ参加を勧めている。
- ・産まれたよ会では、実際に親子と接することにより、出産後の子育てのイメージがついたと好評である。

⑨ 離乳食相談会(年12回開催)

(参加延べ人数 単位:人)

年度	以下 4 か 月	5 か 月	6 か 月	7 か 月	8 か 月	9 か 月	10 か 月	11 か 月	12 か 月	合計
H30	67	97	77	70	44	57	31	17	6	466
H29	58	95	72	87	69	63	40	27	5	516

※各期ごとに集団指導・離乳食見本提示・個別相談

- ・児の月齢の発達成長や離乳食の進み具合に応じて、約半数の人が継続して参加している。

## (2) 乳幼児健診事業

### ① 乳幼児健康診査

対象児	年度	健診回数(回)	対象者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)	発育状況(人)			疾病異常(人)	
						やせ	普通	肥満	実人数	率(%)
4か月	H30	24	492	486	98.8	11	457	18	27	5.6
	H29	24	523	522	99.8	13	490	19	17	3.3
10か月	H30	24	479	478	99.8	3	462	13	20	4.2
	H29	24	561	558	99.5	6	534	18	10	2.0
1歳6か月	H30	24	530	527	99.4	5	496	26	16	3.0
	H29	24	589	586	99.5	3	560	23	16	3.0
3歳	H30	24	564	564	100.0	1	537	26	105	18.6
	H29	24	586	574	98.0	5	535	34	72	13.0

- ・疾病異常は、乳児健診では、先天的なものや発育発達によるものが多く、幼児健診では、視聴覚や泌尿器系疾患が多い。
- ・健診未受診者については発育発達状況の全数把握を行っている。
- ・発育状況において、やせと肥満がみられた児には、個別に栄養指導を行っている。
- ・平成30年4月より、3歳児健診において受診児全員に健診会場にて、視覚屈折検査を実施。遠視・乱視などの早期発見につながっている。

## 2 市民協働型の健康づくり

### (3) 健康づくり事業

#### ① つばめ元気かがやきポイント事業

##### ①-1 登録者の状況

(単位:人)

年度	19歳以下	20～39歳	40～59歳	60～79歳	80歳以上	合計
H30	3,991	1,136	2,044	4,588	801	12,560
H29	3,340*	1,096	1,865	4,616	765	11,682

\*こども手帳取組者H30 3,943人、H29 3,300人含む

- ・登録者数は12,560人で、前年比878人の増加となっており、5年間の延べ参加者数は4万人を超えた。登録者数の内訳は、ポイント手帳7,985人、Web632人、こども手帳3,943人である。
- ・手帳登録者は60歳以上が5,328人(66.7%)、ウェブ登録者は59歳以下が571人(90.3%)を占めている。
- ・性別の登録者数は、男性5,120人、女性7,440人であり、男性は全体の40.8%を占め、年々増加している。
- ・小学校1～6年生全員(H29年度1～4年生)及び園児の希望者の合計3,943人に、「こども手帳」を夏休みに配布、3,830人が提出した(回収率97.1%、前年比17.1%増加)。

##### ①-2 ポイント報告者の状況

(単位:人)

年度	報告者数	抽選会参加数	健康ヒーロー※1	ウォーキングマイスター※2	レインボー健康体操マイスター※3
H30	960	804	266	77	2
H29	928	759	194	72	4

【注釈】

- ※1 高ポイント獲得者
- ※2 ウォーキングマップで800km踏破した者
- ※3 レインボー健康体操を教室・自宅で6か月継続した者

- ・報告者数は前年に比べ増加、健康ヒーローも増加しており、継続性アップにつながっている。  
(報告者数は前年比32人増加、健康ヒーローは72人増加)
- ・抽選会はイベントと同時開催とし、抽選会の魅力アップに心がけた。

##### ①-3 健康づくりマイストーリー講座実施状況

日程:9月24日(月・祝日) 会場:燕市文化会館

講師:石川 雄一 氏(日本ヘルスサイエンスセンター代表取締役)

石川 善樹 氏(医学博士、予防医学研究者)

テーマ:人生100年時代を生き抜く健康法 参加者数:530人

- ・健康づくりマイストーリー運動5周年記念講座として実施した。

参加者の感想:病気予防の意識が高まり、その具体的方法が得られたという感想のほか、「長生きが楽しみになった」、「健康設計を考える機会となった」など未来に向けて前向きな声が多数寄せられた。

#### ② 生活習慣病改善指導事業

- ・平成30年度より、「トリプルスリー(3ヵ月で-3Kg減3ヵ月維持※)」にリニューアルし実施。  
※ダイエット日誌を活用し、保健師・栄養士のアドバイスと定期的な応援により生活改善に取り組む
- ・参加者数は14人で、体重減少した人は7人(50%)であった。
- ・平成26年7月から燕労災病院で委託事業とし実施した事業は平成29年度で終了。

### ③ 健康増進計画実践プロジェクト『元気磨きたい』の取り組み

元気磨きたいとは: 燕市健康増進計画の目標達成に向けて、「食」や「運動」、「世代間交流」など多様なテーマに分かれて、健康づくりを地域に広める市民プロジェクト

区分 \ 年度	H30	H29
プロジェクト数	32	33
メンバー数(人)	597	592
研修会・会議(回)	35	31
活動回数(回)	909	912
参加者延べ人数(人) ※元気磨きたいを含む	24,727	24,062

#### 【活動内容】

- ①全体会 ②コアリーダー会議 ③各プロジェクト代表者会議 ④元気カフェ  
⑤元気まつり実行委員会 ⑥元気まつり ⑦プロジェクト活動

#### 【平成30年度の活動について】

##### 1) 健康づくり出前活動の実施

- ・子育て支援センターや地域のサロン等、市内各地で体験型の健康づくり活動を実施した。地域に出向いた活動の参加者数は増加している。
- ・『人とひと』ふれあいフェスタ2018、「酒吞童子行列」やまちづくり協議会のイベントでの活動等、他組織口や他団体と共に活動する機会が増え、定着している。

##### 2) 研修会や会議の実施

- ・コアリーダー会議では、元気磨きたい活動の今後の活動方針や「各プロジェクト代表者会議」、「元気カフェ」の運営について検討した。
- ・各プロジェクト代表者会議は年2回開催し、各プロジェクトの情報共有や、プロジェクト活動を運営するためのスキルアップを目指した内容を取り入れた。メンバーが中心となり企画運営するプロジェクトが増えている。

##### 3) 元気まつりの開催

- ・活動の幅を広げるため、保健推進委員協議会や食生活改善推進委員協議会と共に、企画から運営まで行った。
- ・「メタボリックシンドローム」など市の健康課題をテーマに企画し、当日は来場者に向けて市の現状やその対策について普及啓発を行った。
- ・「つばめ元気ががやきポイント事業抽選会」、「スポーツ・食育セミナー」と同時開催することで、集客力を口高め、来場者へ磨きたい活動をPRした(来場者数 920人)。

## (4) 地区組織・人材育成事業

### ① 保健推進委員協議会の取り組み

区分		年度	H30	H29
委員数(人)			297	306
研修会	全体(回)		5	5
	地区(回)		6	6
	ブロック(回)		60	63
地区活動	活動回数(回)		377	399
	参加延べ人数(人) * 保推を含む		9,867	9,856

#### 【活動内容】

①定期総会 ②ブロック別研修会 ③地区別研修会 ④全体研修会 ⑤役員会 ⑥地区活動

#### 【平成30年度の活動について】

##### 1) 健康づくり公開講座の実施

・「知っておこう、乳がんのこと」をテーマに、健康づくり公開講座を企画・実施した。一般市民にも広くPRし、乳がんの自己検診法や治療法等の普及啓発に取り組んだ。(参加者数84人)

##### 2) 地区活動の企画実施

・「肥満予防」や「つながりづくり」をテーマとした健康づくり教室や育児相談会等、各地区の実情に合わせた対象や内容を企画・実施した。食生活改善推進委員協議会や元気磨きたい等の他組織、他団体との協働の取組みも展開している。

##### 3) 市の事業への協力と健康づくりの推進

・乳幼児健診、幼児歯科健診、特定健康診査、各種がん検診等に協力した。  
・歯っぴーフェアや元気まつりでブースを担当し、健康づくりへの普及啓発や活動のPRに取り組んだ。  
・当市の健康課題解決に向けての具体的取組を示した『つばめ健康3つのススメ』リーフレットを広めるために作成された「トランプ」を、研修会や地区活動で活用している。

## ② 食生活改善推進委員協議会の取り組み

区分		年度	H30	H29
委員数(人)			115	116
研修会	全体(回)		8	9
	燕地区(回)		6	6
	吉田地区(回)		5	5
	分水地区(回)		4	4
地区活動	活動回数(回)		81	69
	参加延べ人数(人) *食推を含む		18,598	17,872

### 【活動内容】

- ①協議会事業:1)定期総会、2)全体研修会、3)役員会、4)全体活動
- ②県委託事業
- ③県・三条地域連絡会関係事業
- ④広報つばめへ健康レシピ・写真掲載(毎月1日号)
- ⑤各地区事業:1)研修会、2)班長会、3)市の保健事業への協力、4)地区活動

### 【平成30年度の活動について】

#### 1) 食生活改善及び健康増進の推進

- ・食に興味を持ち、楽しみながら学べる媒体として、食育かるた2種(子ども用・成人高齢者用)を作成し、各事業において実施した。
- ・農業まつりや歯っぴーフェア・元気まつりなどのイベントでは清涼飲料水と同等量の砂糖水の試飲や、だし汁の試飲を行い、望ましい食習慣への意識を高めた。
- ・主体的に地区活動を企画・運営し、保育園や小学校・各地区において、防災食や郷土食・歯科講習等様々な内容をテーマとし、子どもから高齢者まで広く住民に普及伝達している。

#### 2) 委託事業について

- ・吉田高校の生徒を対象に、朝食摂取や減塩について講話や調理実習を行い、若者世代へ普及啓発した。
- ・保育園児及び保護者には寸劇を交えた啓発、シルバー世代にはクイズや試飲の実施など、各会場や世代に合わせた方法で減塩推進促進事業を実施した。
- ・会員全員による対話啓発事業として2,233人に訪問などの活動を行い、減塩についての状況を調査した。

### 3 検診から事後相談・事後指導、介護予防までの総合支援

#### (5) 各種健診(検診)事業

##### ① 特定健診等

##### ①-1 特定健康診査(5~6月実施分)

年度	受診票発行者数 (A)	受診者数 (B)	受診票発行者数に対する受診者の割合 (B/A)	総合判定 * ( )内は合計が100になるよう調整		
				異常なし	保健指導	受診勧奨 (受療中含む)
H30	10,891人	4,987人	45.8%	80人 (1.6%)	1,002人 (20.1%)	3,905人 (78.3%)
H29	11,752人	5,213人	44.4%	132人 (2.5%)	1,065人 (20.4%)	4,016人 (77.1%)

※「特定健康診査」は、高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、燕市国民健康保険に加入している人で特定健診の実施年度中に40歳~75歳となる人(ただし、人間ドックの申込者は除く)を対象に実施

##### ①-2 後期高齢者健康診査

年度	対象者数 (A)	申込者数	受診者数 (B)	受診率 (B/A)	総合判定 * ( )内は合計が100になるよう調整		
					異常なし	保健指導	受診勧奨 (受療中含む)
H30	11,402人	3,435人	2,951人	25.9%	14人 (0.5%)	389人 (13.2%)	2,548人 (86.3%)
H29	11,391人	3,404人	2,900人	25.5%	31人 (1.1%)	423人 (14.6%)	2,446人 (84.3%)

※「後期高齢者健康診査」は、高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、受診日において年齢が75歳以上の人を対象に実施

##### ①-3 健康診査

年度	申込者数 (A)	受診者数 (B)	申込者数に対する受診者の割合(B/A)	総合判定 * ( )内は合計が100になるよう調整		
				異常なし	保健指導	受診勧奨 (受療中含む)
H30	1,491人	738人	49.5%	186人 (25.2%)	274人 (37.1%)	278人 (37.7%)
H29	1,598人	772人	48.3%	161人 (20.9%)	312人 (40.4%)	299人 (38.7%)

※「健康診査」は、健康増進法に基づき、年度末年齢が19歳~39歳及び40歳以上で生活保護を受けている申込者を対象に実施

・5月~6月の30日間、公共施設15会場で実施。うち土曜日を2日、日曜日を1日実施した。

##### ②糖尿病検診

年度	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	判定結果(人)		
				糖尿病型	境界型	正常型
H30	658	113	17.2	23	63	27
H29	532	80	15.0	8	49	23

・8月の2日間、集団検診で実施した。

### ③ 胃がん検診（対象者は40歳以上）

年度	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	要精検者数 (人)	精検 受診者数 (人)	精検結果(人)	
						がん	がんの疑い
H30	50,748	3,667	7.2	126	119	11	3
H29	50,830	3,892	7.7	106	98	8	0

#### 【年齢別受診状況】 (単位:人)

年度	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
H30	311	365	1,035	1,456	500
H29	321	408	1,206	1,467	490

- ・検診を受けやすい体制づくりとして、検診時期を7月上旬～7月中旬と9月下旬～10月下旬に実施。うち土曜日を3日間実施した。
- ・がんと判定された11人の内訳  
**【早期がん5人】**50歳代女性:1人(再診)、70歳代男性:3人(再診)、80歳代男性:1人(初診)  
**【進行がん4人】**70歳代女性:1人(再診)、80歳代男性:3人(再診)  
**【深達度不明がん2人】**70歳代男性:2人(再診)
- ・精検未受診者7人に2月に受診勧奨を行い、2人の受診につながった(令和元年5月現在)。
- ・精検未受診の理由としては、受診勧奨時は「受診する」とのことだったが、受診にはつながっていない、来年度も精検であれば受診する、などだった。

### ④ 大腸がん検診（対象者は30歳以上）

年度	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	要精検者数 (人)	精検 受診者数 (人)	精検結果(人)	
						がん	がんの疑い
H30	59,490	8,402	14.1	454	356	13	2
H29	59,727	8,712	14.6	492	408	26	1

#### 【年齢別受診状況】 (単位:人)

年度	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
H30	499	815	916	2,126	2,913	1,133
H29	515	834	986	2,414	2,823	1,140

- ・未受診者に対し追加検診を土曜日に2日実施した。
- ・がんと判定された13人の内訳  
**【早期がん9人】**60歳代男性:1人(再診)、女性:2人(再診)、70歳代男性:2人(再診)、女性:2人(再診2人)、80歳代男性:2人(初診1人、再診1人)  
**【進行がん2人】**70歳代男性:1人(再診)、女性:1人(再診)  
**【深達度不明がん2人】**50歳代女性:1人(再診)、60歳代男性:1人(再診)
- ・精検未受診者128人に12月に受診勧奨を行い、48人の受診につながった(令和元年5月現在)。
- ・精検未受診の理由としては、「体調が良い」、「以前精検で異常なしだった」、「痔・便秘のせい」、「年齢・薬などで内視鏡によるリスクが大きい」などが多い。

## ⑤ 肺がん検診（対象者は40歳以上）

### ⑤-1 胸部レントゲン検診（65歳以上は結核検診を含む）

年度	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	要精検者数 (人)	精検 受診者数 (人)	精検結果(人)	
						がん	がんの疑い
H30	50,748	9,318	18.4	159	146	3	9
H29	50,830	9,585	18.9	156	146	2	7

#### 【胸部レントゲン 年齢別受診状況】(単位:人)

年度	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
H30	618	826	2,648	3,807	1,419
H29	639	926	2,945	3,668	1,407

- ・特定健康診査と同日に実施した。
- ・がんと判定された3人の内訳：70歳代女性：2人（再診）、80歳代男性：1人（初診）
- ・精検未受診者18人に11月に受診勧奨を行い、5人の受診につながった（令和元年5月現在）。
- ・精検未受診の理由としては、「今度行く予定」、「来年度の結果も精検なら受診する」、「受診するのが億劫」などだった。

### ⑤-2 喀痰細胞診（対象者は40歳以上高危険群の人） (単位:人)

年度	対象者 数	喀痰容 器配布 者数	受診者 数	要精検 者数	精検受 診者数	精検結果(がん・がんの疑い)	
						がん	がんの疑い
H30	1,231	250	144	0	0	0	0
H29	1,464	296	212	1	0	0	0

※高危険群とは喫煙状況、自覚症状、職歴により喀痰細胞診の対象とされた人

- ・喀痰回収日は公共施設3会場で4日間実施した。
- ・高危険群でも、現在は喫煙していない人は痰の採取ができないため希望しない人が多い。

⑥ 乳がん検診—マンモグラフィ検診（対象者は40歳以上で前年度未受診の女性）

年度	対象者数 (人)	受診者数(人)			受診率 (%)	要精検者数 (人)	精検 受診者数 (人)	精検結果(人)	
		施設	集団	計				がん	がんの疑い
H30	26,774	294	2,642	2,936	11.0	219	218	9	2
H29	26,783		3,469	3,469	13.0	206	204	15	2

【施設 年齢別受診状況】

(単位:人)

年度	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
H30	114	62	69	42	7
H29					

【集団 年齢別受診状況】

(単位:人)

年度	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
H30	592	652	704	581	113
H29	927	809	964	654	115

- ・施設(視触診)検診はH29年度から廃止し、2年に1度のマンモグラフィのみとなった。マンモグラフィ検診の問診時には自己検診(視触診)の啓発に力を入れている。
- ・平成30年度より、市内の2医療機関におけるマンモグラフィ検診を8月～12月に新規実施し、受診しやすい体制を整備した。
- ・集団(マンモグラフィ)検診は、8月～10月まで公共施設4会場で18日間実施し、そのうち土曜日を2日、日曜日を2日実施した。さらに未受診者検診を10月の土曜日に実施した。土曜日、日曜日については、働き盛り世代が集中して受診するため、スムーズに検診が進むように平成28年度から予約制としている。
- ・がんと判定された9人の内訳：40歳代 5人(初診1人、再診4人)、50歳代 1人(再診)、60歳代 1人(再診)、70歳代 1人(再診)、80歳代 1人(再診)
- ・精検未受診者4人に受診勧奨を行い、3人の受診につながった(令和元年5月現在)。
- ・精検未受診の理由としては、「どこを受診するか迷う」、「以前異常なしだったので行きたくない」などがある。
- ・40～50歳代のがん発見が多いことより、平成30年度受診勧奨年齢を46・56歳を対象とし、1,027人中受診者数356人(受診率34.6%)で、全体の受診率を大きく上回った。

## ⑦ 子宮がん検診（対象者は20歳以上の女性）

年度	対象者数 (人)	受診者数(人)			受診率 (%)	要精検者数 (人)	精検 受診者数 (人)	精検結果(人)	
		施設	集団	計				がん	がんの疑い または 未確定
H30	34,308	4,626	1,146	5,772	16.8	127	118	1	26*
H29	34,491	4,684	1,245	5,929	17.2	133	127	6	0

### 【施設 年齢別受診状況】

(単位:人)

年度	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
H30	380	832	1,163	993	760	431	67
H29	371	852	1,213	946	840	398	64

### 【集団 年齢別受診状況】

(単位:人)

年度	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
H30	17	61	109	160	351	374	74
H29	16	60	135	173	411	378	72

\*:平成30年度に判定区分が変更となり、「がんの疑い」から「がんの疑い、または未確定」に変更となったため、増加した。

- ・施設検診は市内の4医療機関で6月～11月まで実施した。
- ・集団検診は7、8月に公共施設で3会場、6日間実施した。
- ・がんと判定された1人の内訳:体がん1人(50歳代 再診)
- ・未受診者対策として10月1日現在の申込者で未受診の20～41歳の人にハガキで受診勧奨を行い、受診率向上に努めた。
- ・精検未受診者27人に2月に受診勧奨を行い、15人の受診につながった(令和元年5月現在)。
- ・受診勧奨用のチラシを作成し乳幼児健診に来る母親や骨粗しょう症検診の会場で配布し、会場で申込みを受けつけた。
- ・20～40歳代のがん発見が多いことより、平成30年度受診勧奨年齢を21・26.31.36.41歳とし、1,604人中受診者数371人(受診率23.1%)で、全体の受診率を大きく上回った。

### 【参考】燕市、新潟県および国の各種がん検診受診率対照表

(平成29年度地域保健・健康増進事業報告より)

(単位:%)

	胃がん	大腸がん	肺がん	子宮がん	乳がん(マンモグラフィ)
燕市	10.5%	12.7%	13.5%	27.8%	29.9%
新潟県	11.9%	10.9%	10.7%	17.0%	24.6%
国	8.4%	8.4%	7.4%	16.3%	17.4%

※対象者は40～69歳(胃がん50～69歳・子宮がん20～69歳)。

※胃がん・子宮がん・乳がんの受診者数については、前年度受診者数+当該年度受診者数から2年連続受診者を引いた数をもとに受診率を算出している。

- ・胃がん検診受診率は10.5%と、県より低い国より高い。
- ・大腸がん検診受診率は12.7%、肺がん13.5%、子宮がん27.8%、乳がん(マンモグラフィ)29.9%と、県・国の受診率に比べ高い。

⑧ 前立腺がん検診（対象者は50歳以上）

年度	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	要精検者数 (人)	精検 受診者数 (人)	精検結果(人)	
						がん	がんの疑い
H30	18,191	2,045	11.2	162	134	2	22
H29	18,158	2,021	11.1	177	144	5	22

【年齢別受診状況】 (単位:人)

年度	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
H30	181	636	900	328
H29	199	685	842	295

- ・がんと判定された2人の内訳 : 70歳代 2人(再診2人)
- ・精検未受診者47人に2月に受診勧奨を行い、19人が受診している(令和元年5月現在)。
- ・平成29年度の市の受診率は8.8%で県の受診率(7.0%)を上回っている(がん検診結果報告より)。

⑨ 胃がんリスク検診（対象者は40・45・50・55・60歳で燕市国民健康保険加入者以外の人）

年度	対象者 数 (人)	受診者 数 (人)	受診率 (%)	検診結果(人)					要精 検者 数 (人)	精検 受診 者数 (人)	精検結果(人)		
				A	B1	B2	C	D			がん	がんの 疑い	その他
H30	4,504	717	15.9	A	B1	B2	C	D	249	170	2	0	144
				468	84	128	30	7					
H29	4,410	756	17.1	A	B	C	D	203	123	3	0	106	
				553	126	56	21						

- ・がんと判定された2人の内訳: 50歳代2人
- ・ピロリ菌感染胃炎の割合が、精検受診者の中で77.1%と大多数を占めており、ほとんどが除菌治療につながった。
- ・平成29年度からの新規事業。平成26年度から国保加入者に保険年金課で実施している。
- ・平成30年度から判定基準が変更となった。

⑩ 骨粗しょう症検診（対象者は40・45・50・55・60・65・70歳の女性）

年度	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	検査結果(人)		
				正常	要観察	要精検
H30	3,894	520	13.4	211	108	201
H29	4,051	483	11.9	117	95	271

- ・平成29年度から対象年齢を変更し、骨粗しょう症予防教室の新規事業により、骨粗しょう症予防のセルフケア普及に力を入れている。

## (6) 各種健康相談・教室事業

### ① 健康相談

年度	総合		重点		合計	
	実施回数(回)	相談者延べ人数(人)	実施回数(回)	相談者延べ人数(人)	実施回数(回)	相談者延べ人数(人)
H30	144	1,968	68	681	212	2,649
H29	151	2,146	63	660	214	2,806

※重点健康相談(高血圧、脂質異常症、糖尿病、歯周疾患、骨粗しょう症、女性の健康、病態別)

- ・総合健康相談では、地区の保健推進委員や民生委員、老人会役員等と連携しながら、血圧測定や個別相談等を実施し、高齢者の健康管理を実施している。
- ・重点健康相談では、本人や家族への糖尿病個別栄養相談や、栄養指導や運動指導を取り入れた骨粗しょう症予防のための相談会を実施している。

### ② 健康教育

年度	歯周疾患		ロコモティブシンドローム (運動器症候群)		病態別		一般		合計	
	実施回数(回)	延べ人数(人)	実施回数(回)	延べ人数(人)	実施回数(回)	延べ人数(人)	実施回数(回)	延べ人数(人)	実施回数(回)	延べ人数(人)
H30	15	111	22	363	24	770	1,165	29,293	1,226	30,537
H29	18	150	23	349	44	733	1,100	26,988	1,100	26,988

- ・病態別健康教育では、糖尿病予防に向けた検診や結果説明会、生活習慣病予防のための教室等を実施している。
- ・一般健康教育では、健診結果を活かした「いきいきライフ教室」、「燕けんこう大学」や、保健推進委員や食生活改善推進委員の地域における健康づくり活動及び、研修会等を実施している。
- ・平成26年度から、「つばめ元気ががやきポイント事業」を開始し、各種検診や関係団体・関係機関の事業やイベント等で健康づくりに関する普及啓発を行っている。

### ③ 特定保健指導

年度	国保加入者数4.1現在(人)	特定健診受診者(人)	特定保健指導率(%)	動機づけ支援			積極的支援		
				対象者(人)	利用者(人)	保健指導率(%)	対象者(人)	利用者(人)	保健指導率(%)
H30	13,658	5,213	68.3	502	246	49.0	194	74	38.1
H29	12,292	6,406	46.6	617	331	53.6	239	85	35.6

※平成30年度は集団健診のみ(人間ドック受診者は含まず、保健指導は初回面接の人数)

※平成29年度は国報告の確定値(人間ドック受診者を含み、保健指導は終了者数で外部委託含む)

- ・平成29年度の特定保健指導率は向上に努めた結果、県平均(38.5%)より高くなっている。
- ・平成30年度は特定健診時対象者全員に初回面接(分割1回目)としてメタボ改善の動機付けを行った結果、特定保健指導率が向上した。また、スッキリ教室や個別相談、各種教室等の参加を促し、新規利用者を増やす工夫をしている。

#### ④ 重症化予防の取組み{高血圧、高血糖、脂質異常、CKD(慢性腎臓病)}

- ・集団の特定健診、健康診査、追加の特定健診の受診者から対象者を選定(19～74歳)
- ・対象者への訪問指導や受診勧奨の実施(高血圧、糖尿病、脂質異常症での内服者除く)
- ・訪問期間:平成30年9月～平成31年3月まで
- ・訪問従事者:保健師、栄養士、在宅看護職

項目	対象範囲	対象数 (人)	訪問指導 または 電話相談 (人)	受診につな がった人数 (3月確認)
高血圧	血圧症度Ⅱ以上(収縮期160以上または拡張期100mmHg以上)	166	124	52
高血糖	HbA1c6.5%以上または随時血糖200mg/dl以上	98	81	47
脂質異常	中性脂肪300mg/dl以上またはLDL160mg/dl以上	221	171	78
CKD	専門医受診レベル(※)、尿蛋白(+)でeGFR60未満	30	29	16

重複の場合の優先項目 ①CKD ②高血圧 ③高血糖 ④脂質異常

※CKDにおける専門医受診レベル

eGFR50未満(70歳以上は40未満)、尿タンパク(2+)以上、尿タンパク(+)以上かつ尿潜血(+)以上のいずれか。

eGFRとは糸球体ろ過量のことで、腎臓の働きを算出するものです。

※CKD対象は、国保レセプトにて、受診状況を確認し把握した者を含む。

- ・受診勧奨した対象の5割程度が受診行動につながっている。

## (7) 介護予防事業

### ① 機能訓練事業

年度	回数(回)	参加延べ人数(人)
H30	15	229
H29	15	340

- ・保健事業の位置づけから、通所型介護サービスを受けていない人を対象としている。
- ・参加者が自主性を高める内容を展開しているため、教室での自らの役割をもち、教室運営に関する意見を述べるなど主体的に参加している。
- ・身体機能が低下し始めた人の参加が多く、介護予防の健康教室の対象者にも該当するため、地域包括支援センターなどと情報を共有し、身体機能の維持につながるよう、働きかけている。

### ② 認知症予防教室

年度	回数(回)	参加延べ人数(人)
H30	12	89
H29	12	125

- ・保健事業の位置づけから、通所型介護サービスを受けていない人や認知症の診断を受けていない人を対象としている。

## 4 自分にあったこころの健康づくり総合支援

### (8) こころの健康づくり事業

#### ① こころの健康相談

##### ①-1 健康診査時の「こころの元気アンケート」からのハイリスクアプローチ

・実施状況: 特定健診及び健康診査受診者 8,676人

ア「あまり元気でない」回答者 506人( 5.8%)

イ「元気・普通」回答者 8,159人( 94.0%)

- ・「あまり元気でない」と回答した人で個別相談希望者には、「うつスクリーニング」を実施した。
- ・「うつスクリーニング」で早期対応が必要な人には、地区担当保健師が電話や訪問などで対応した。
- ・「こころの元気アンケート」で個別相談希望者52人には、こころの相談会を案内した。こころの相談会を含め、その他訪問、電話、各種教室などで47人をフォローしている。

##### ①--2 こころの相談会

- ・周知方法: 健康診査時の「こころの元気アンケート」で「あまり元気でない」と回答した人に相談会の案内  
健診会場でパンフレットの配布  
広報掲載
- ・予約制: 時間 9:30～15:30 1人あたり 50分
- ・内容: 保健師等による個別相談

年度	回数(回)	参加者数(人)
H30	3	21
H29	3	14

- ・相談傾向としては、家族や自身の病気や介護の問題、人間関係の相談が多い。

#### ② 精神保健福祉講座

##### ②-1 こころの健康講座

年度	回数(回)	参加者 延べ人数(人)
H30	4	229
H29	4	91

- ・平成30年度は、テーマに従来のうつ病予防・ストレスコントロールのほか発達障がいを加えて開催、燕商工会議所との連携強化により、参加者数が増加した。
- ・参加者の68.5%が「身近に心配な人がいる」と答えており、そのため、こころの健康に関心が高いと思われる。
- ・60歳代の参加者は55人(全体の約24%)、70歳代以上の参加者は84人(全体の約36.7%)で、60歳以上の参加者が全体の約6割を占めている。高齢者の自殺者数が多い傾向を考えると、こころの健康を保つ必要性の高い対象に働きかけられている。

### ③ ゲートキーパー養成講座

#### ③-1 ゲートキーパー養成研修会（一般向け）

年度	回数(回)	参加者数(人)
H30	2	43
H29	2	33

・昨年度に引き続き、市内ボランティア組織、支えあい活動推進委員、民生委員・児童委員、保健推進委員などに対して参加勸奨を行った。

傾聴についての講義とロールプレイの演習を取り入れて2回コースで実施した。

・終了後のアンケートでは、全員が身近な人や地域の活動やボランティア活動に役立てたいと回答していた。

#### ③-2 こころのゲートキーパー養成研修会（専門職向け）

年度	回数(回)	参加者数(人)
H30	1	12
H29	1	12

・相談業務に携わる包括支援センター、相談支援事業所などを対象に自殺危機にある人のサインに気づき、自殺を食い止めるスキルを身につける目的で実施した。

#### ③-3 ゲートキーパー研修会（市役所職員対象）

年度	回数(回)	参加者数(人)
H30	1	27
H29	1	22

・市役所職員を対象に実施し、ゲートキーパーについて理解を深め、市民への対応時に自殺予防の視点を持ってもらい、市役所内での連携を図っている。

#### ③-4 こどもを守るゲートキーパー研修会（教職員向け）

年度	回数(回)	参加者数(人)
H30	1	49
H29	1	64

・子どもに携わる教職員、民生委員・児童委員を対象に、子どもの自殺の現状、自殺のリスク要因の理解を深め、支援のあり方を学び、子どもの自殺予防に役立てている。

## 5 世代を超えた総合支援

### (9) 食育事業

---

- ① 母子保健事業における食育事業 : 1～4ページ参照
- ② 成人保健事業における食育事業 : 9～20ページ参照
- ③ 健康づくり事業における食育事業 : 5～8ページ参照
- ② 歯科保健事業における食育事業 : 21～23ページ参照

## (10) 歯科保健事業

### ① 幼児歯科健診

対象児	年度	健診回数(回)	受診者数(人)	むし歯無 の人数 (人)	むし歯有 の人数 (人)	むし歯有 病者率 (%)	フッ化物 歯面塗 布数 (人)	フッ化物 歯面塗 布率 (%)
1歳	H30	12	477	477	0	0.0	469	98.3
	H29	12	543	543	0	0.0	529	97.4
1歳6か月	H30	24	527	526	1	0.2	519	98.5
	H29	24	586	584	2	0.3	581	99.1
2歳	H30	12	530	519	11	2.1	526	99.2
	H29	12	512	500	12	2.3	508	99.2
2歳6か月	H30	12	515	500	15	2.9	512	99.4
	H29	12	546	521	25	4.6	540	98.9
3歳	H30	24	564	517	47	8.3	549	97.3
	H29	24	574	506	68	11.8	557	97.0

・幼児の成長と共にむし歯有病者率が高くなる傾向があるため、2歳児での歯磨きなどに関する保健指導を強化している。

### ② 妊婦歯科健診

年度	対象者数 (人)	受診者 数(人)	受診率 (%)	むし歯の ある者 (人)	むし歯有 病率 (%)	むし歯の状況(本)				
						むし歯総 本数	未処置 歯数	処置歯 数	喪失歯 数	一人平均 むし歯数
H30	555	199	35.9	129	64.8	1,461	160	1,291	10	7.34
H29	545	200	36.7	183	91.5	1,597	222	1,334	41	7.99

※平成28年度から市内歯科医療機関での個別健診に変更(平成27年度:ハッピーベビークラブ2回目に実施)

・母子健康手帳交付時や助産師訪問時に受診勧奨をしている。

### ③ 歯周疾患検診（対象者：40、50、60、70歳）

年度	対象者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)	異常なし(人)	要指導(人)	要精検・要医療(人)
H30	4,488	417	9.3	39	116	262
H29	4,624	454	9.8	40	163	251

※平成27年度まで特定健診等(集団)の会場において年齢にかかわらず希望者に実施していたが、平成28年度から歯科医療機関での個別検診とし、上記対象者に案内をし実施している。

・個別検診に変更したことで、社会保険加入者も受診しやすくなった。

#### 【年齢別受診状況】 (単位:人)

年度	40歳	50歳	60歳	70歳
H30	66	99	96	156
H29	88	92	114	160

### ④ 唾液潜血反応検査（対象者：19歳以上）

年度	健康診査受診者数(人)	唾液潜血反応検査受診者数(人)	受診率(%)	陰性(人)	陽性(人)	結果不明(人)
H30	8,676	1,261	14.5	535	721	5
H29	8,885	1,388	15.6	569	815	4

※健康診査(集団)受診時に希望者に実施

特定健診(追加健診)受診者は健康診査受診者数に含まない

- ・健診時の歯科問診票からハイリスク者に受診勧奨を実施した。
- ・陽性反応の人には歯科衛生士が指導および受診勧奨を行っており、受診のきっかけや歯や口の健康に対する意識づけになっている。

### ⑤ フッ化物洗口の実施状況

		保育園・幼稚園等名	実施率(%)
保育園	公立	藤の曲保育園	100.0
		つぼみ保育園	100.0
		小池保育園	97.9
		小高保育園	100.0
		西燕保育園	95.7
		大曲八王寺保育園	97.3
		水道町保育園	96.9
		三方崎保育園	96.6
		よしだ保育園	99.0
		粟生津保育園	100.0
		吉田北保育園	100.0
		吉田西太田保育園	100.0
		地藏堂保育園	93.9
		島上保育園	100.0
		あおい保育園	94.4
		笈ヶ島保育園	100.0
	私立	泉保育園	96.0
		第二泉保育園	100.0
		ぎんなん保育園	100.0
		立正保育園	100.0
幼稚園	公立	燕東幼稚園	47.6
		燕北幼稚園	100.0
こども園	公立	燕こども園	98.0
		燕南こども園	97.0
	私立	真学園	99.0
		きららおひさまこども園	95.2
保育園・幼稚園・こども園計			97.1

		校名	実施率(%)
小学校	公立	燕東小学校	98.1
		燕西小学校	98.2
		燕南小学校	99.5
		燕北小学校	100.0
		小池小学校	96.5
		大関小学校	95.7
		小中川小学校	99.7
		松長小学校	100.0
		粟生津小学校	99.2
		吉田小学校	98.8
		吉田南小学校	97.4
		吉田北小学校	98.1
		分水北小学校	99.2
		分水小学校	98.6
		島上小学校	100.0
小学校計			98.4

		校名	実施率(%)
中学校	公立	燕中学校	98.5
		燕北中学校	97.9
		小池中学校	98.0
		吉田中学校	99.2
		分水中学校	98.7
中学校計			98.6

- ・保育園、幼稚園、こども園については、年中児からフッ化物洗口を開始している。
- ・吉田日之出保育園は、3歳未満児対象の施設であるため、一覧には掲載していない。
- ・市内の保育園、幼稚園、こども園、小・中学校すべてで医薬品によるフッ化物洗口を実施している。